



Company Profile

会社案内





Contents

P.2	——	目次 contents
P.3	——	理念・品質方針・挨拶 Message from the company
P.4	——	事業・体制 Business flow and production base
P.5-6	——	歴史 Our history
P.7-8	——	製造ライン Production line
P.9	——	取り扱い商品 Product
P.10	——	販売地域 Sales area
P.11-12	——	種類 Product type
P.13-14	——	会社情報 Company Profile

理念

山洋を通して より多くの人 が 喜び合える企業にしよう

■お客様に喜んでいただく ■社員に喜んでいただく ■地域・社会に喜んでいただく
この思いが原点であり、永遠の目標です。

品質方針

お客様に喜んでいただける製品づくりに、
一人ひとりが **誇り** と **自信** と **責任** を持って果たすこと

山洋の綿棒がお客様にとって安心できる日常となれるように
社員一人ひとりが、常に考え行動を起こすことを信念とし、
年間、約60億本もの綿棒と向き合っています。

挨拶



代表取締役会長
中谷 洋

当社は「棒に綿をつける」という製品を軸に、一般用、工業用、化粧用、医療用と様々な分野に挑戦し続け、生産本数は年間約60億本に至るまでに成長しました。
これからは更にすばやい変化が求められる時代となります。その変化に対していかに「理念・品質方針」を体現していくかが重要です。他社にはできない商品開発と技術力で、世の中のニーズに先駆けて応え、皆様に喜んで頂ける商品を作り続ける事が当社の永続的な成長と発展に繋がっていくと思っております。



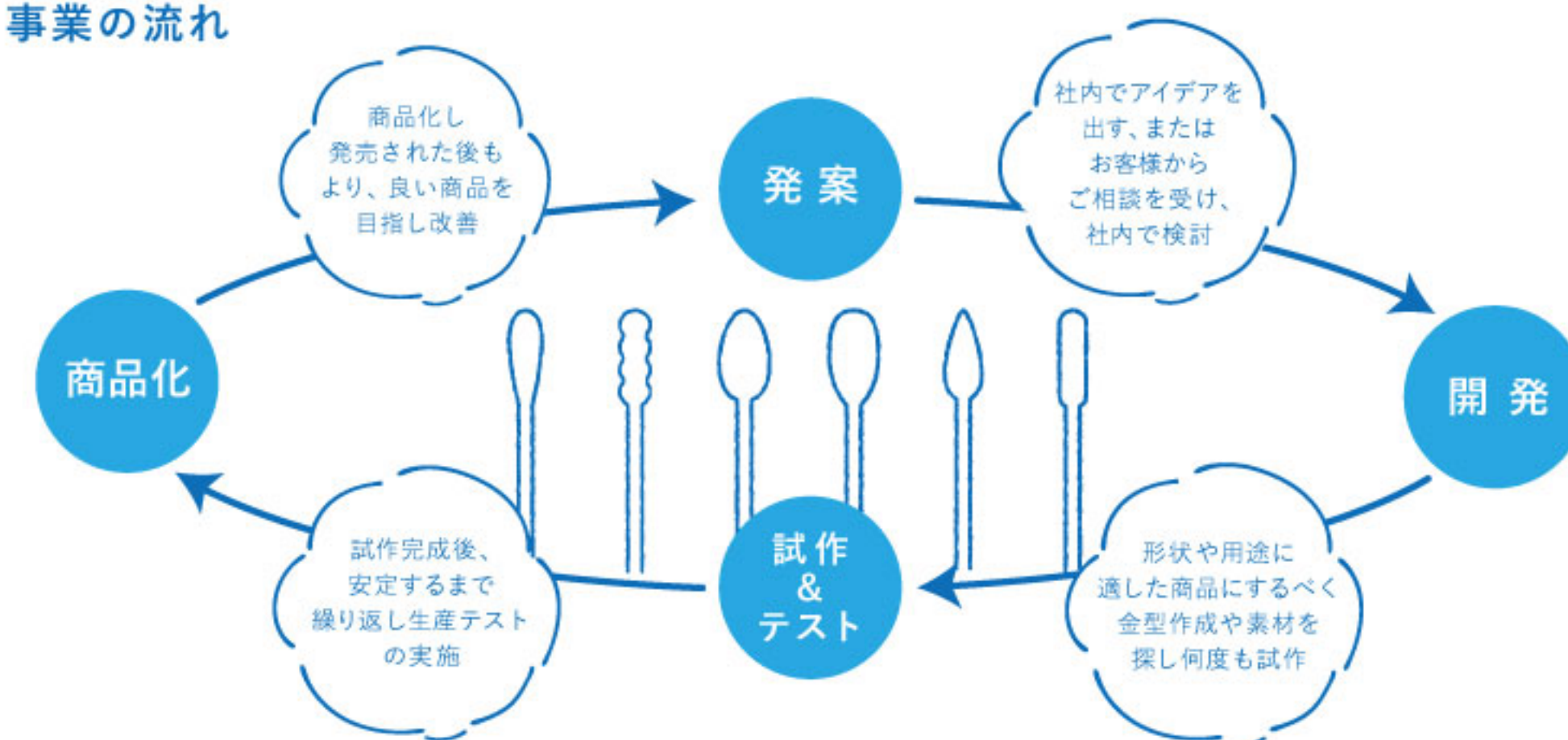
代表取締役社長
日比 努

少子高齢化に加え、中国企業の著しい成長や欧米企業のM&A等により、我々を取り巻く環境は以前にもまして厳しくなっております。そのため、創業以来50年以上培ってきた日本企業ならではの「モノづくりへのこだわり」「高品質」をさらに強化しながら、海外勢に負けない競争力を身に付けなければなりません。前述の通り、厳しい環境を耐え抜くための進化を続け、社員とその家族の幸せを追求すると同時に、お客様、取引先様のご期待にお応えできるよう精一杯努力して参ります。

事業

山洋は綿棒の生産においては、お客様からの多種多様な要望に答える確かな技術があります。液体を含浸させたり、粘着剤をまとわせた特殊なものから必要箇所に合わせた様々な形状も山洋の技術であれば可能です。

事業の流れ



体制

山洋は国内と国外、ふたつの拠点で、高品質の製品を安定供給いたします。
“山洋品質”はベトナム工場でも現地のオペレータの教育の一貫として日本での研修制度を採用することで、高い品質を維持しています。



大阪府・富田林工場（本社）



ベトナム工場（SANYO VIETNAM CO.,LTD.）

歴史

山洋の原点は爪楊枝から
始まりました。



こけし楊枝

1957年～1966年

創業者の中谷文雄が現在では爪楊枝の主流の形であるこけし楊枝を開発・発売。山洋工業所を創業時に生産を終了している。



ペンチップ

1966年～1983年

1966年に爪楊枝に替わって山洋の主力商品として生産していたサインペンの先端に使用されるペンチップ。1983年に生産を終了している。



6インチ木軸綿棒

1975年

山洋で初めて生産開始した綿棒は6インチ(15.24cm)の木軸綿棒。主に医療用としてヨーロッパ向けに輸出された。



耳かき綿棒

1975年

日本で広く普及していた耳かきに似せた形ができなかと試行錯誤し、出来上がった商品。



筆先型綿棒

1981年

大手化粧品メーカーの要請を受け、先端が丸くない、先の尖った綿棒の製造に成功。



丸筒容器での販売

1983年

リーフパッケージが主流だった時代に、袋詰よりも見栄えがよく安定性もあることから透明なプラスチック容器に綿棒を入れ販売。現在では丸筒での販売が主流。



工業用綿棒

1990年

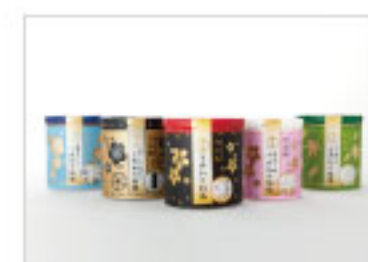
電子機器、精密機器の製造時に使用される綿棒。ハイテク機器に使用されるため、サイズや脱落繊維などきめ細かい機能が求められる商品。



耳鼻科用綿棒

1997年

使い捨てになった捲き手巻き綿棒。看護婦さんの綿登き、後処理の手間を省くために、開発された商品。



こだわり綿棒シリーズ

2012年～

山洋のこだわりが詰まった綿棒。綿部分の使用感、軸の強度、安心設計にこだわった商品。



360°耳かき風綿棒

2017年

「気持ちいい」を追求してつくられた綿棒。しっかりと力が入るのに綿でできているから優しい使用感の綿棒。

1957

こけし楊枝製造機完成

1966

・ペンチップ生産開始

1967

山洋工業所の創業

1969

綿棒製造機完成

1973

・綿球発売

1975

綿棒の生産・販売開始

・6インチ木軸綿棒輸出開始
・耳かき付き綿棒発売

1980

株式会社山洋設立

1981

・筆先型綿棒発売
・ペビー綿棒発売

1982

工場完成（現在の本社所在地に移転）

1983

丸筒容器入綿棒の発売

1984

・株式会社サンテック設立

1986

・シャワー綿棒発売

1990

工業用で初の自社ブランド発売（HUBY）

1992

・一般用で初の自社ブランド発売（夢幸棒）

1997

・耳鼻科用綿棒発売

1998

・国産良品綿棒発売

2001

・ISO 9001 認証取得

2005

・有限会社クリンクロス設立
（現・株式会社クリンクロス）

2008

・SANYO VIETNAM CO., LTD. 設立

2012

山洋こだわり綿棒発売

2017

山洋創業 五〇周年

・医療用綿棒発売（Dr.HUBY micro 3mm）
・360°耳かき風綿棒発売

2018

・日比 努 代表取締役社長に就任
・中谷 洋 代表取締役会長に就任

創業者
中谷 文雄
(1912 - 1988)

◀ 1962年頃

1938年故郷の飛騨高山で木工製品を製作する会社を立ち上げる。爪楊枝の生産を開始し、爪楊枝生産の機械化に成功する。1956年頃、現在も主流のこけし楊枝を開発。その後、1967年、富田林市に移転。社名を【山洋工業所】に改め、経営から退く。その後は綿棒製造機や綿球製造機、耳かき付き綿棒製造機等の様々な製造機の開発に尽力した。それらの製造機で作られた製品は、現在の山洋商品の礎となっている。

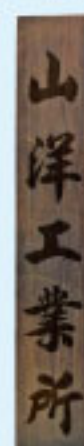


会長
中谷 洋

◀ 1982年頃
（当時社長）

1967年4月に山洋工業所の社長に就任。1972年頃、父と盟友の有村氏が綿棒製造機、綿球製造機を完成させた事をきっかけに綿球と綿棒の製造に着手する。1980年【株式会社 山洋】を設立。1983年頃、今では主流の丸筒綿棒の開発・販売。1990年NB商品の開発・販売。その後も、今までにない綿棒の開発の先頭に立ち続けた。2018年6月に株式会社山洋の会長に就任。現在も日々新しい綿棒の開発に尽力している。

山洋の由来



▲ 現在のロゴマーク

◀ 創業当時の看板

1967年4月に【中谷商店】から【山洋工業所】に社名を改めた。社名の由来は、親子で“山”と“洋”（海）が好きだった事と「山のように高く、海のように深く」という意味合いを込めて名付けた。さらに法人化し、【株式会社 山洋】になった後に現在のロゴマークを作成した。このロゴマークは、太陽の光を浴び、輝ける会社になるようにとの願いを込め、太陽と山と海をイメージして作成されている。

山洋念願のNB商品の販売

工業用綿棒
NBブランド一般用綿棒
NBブランド

山洋は約15年もの間、他社へのOEM供給がメインでNB商品の発売は山洋の悲願だった。そして遂に、1990年山洋初のNB商品として工業用綿棒の【HUBY】を発売する。【HUBY】発売から2年後に、ようやく一般消費者用綿棒のNB商品【夢幸棒】が発売された。その後【国産良品】というブランド名に変わり夢幸棒の時には叶わなかった、ブランド展開もされ、現在も好評発売中である。

ISOの取得

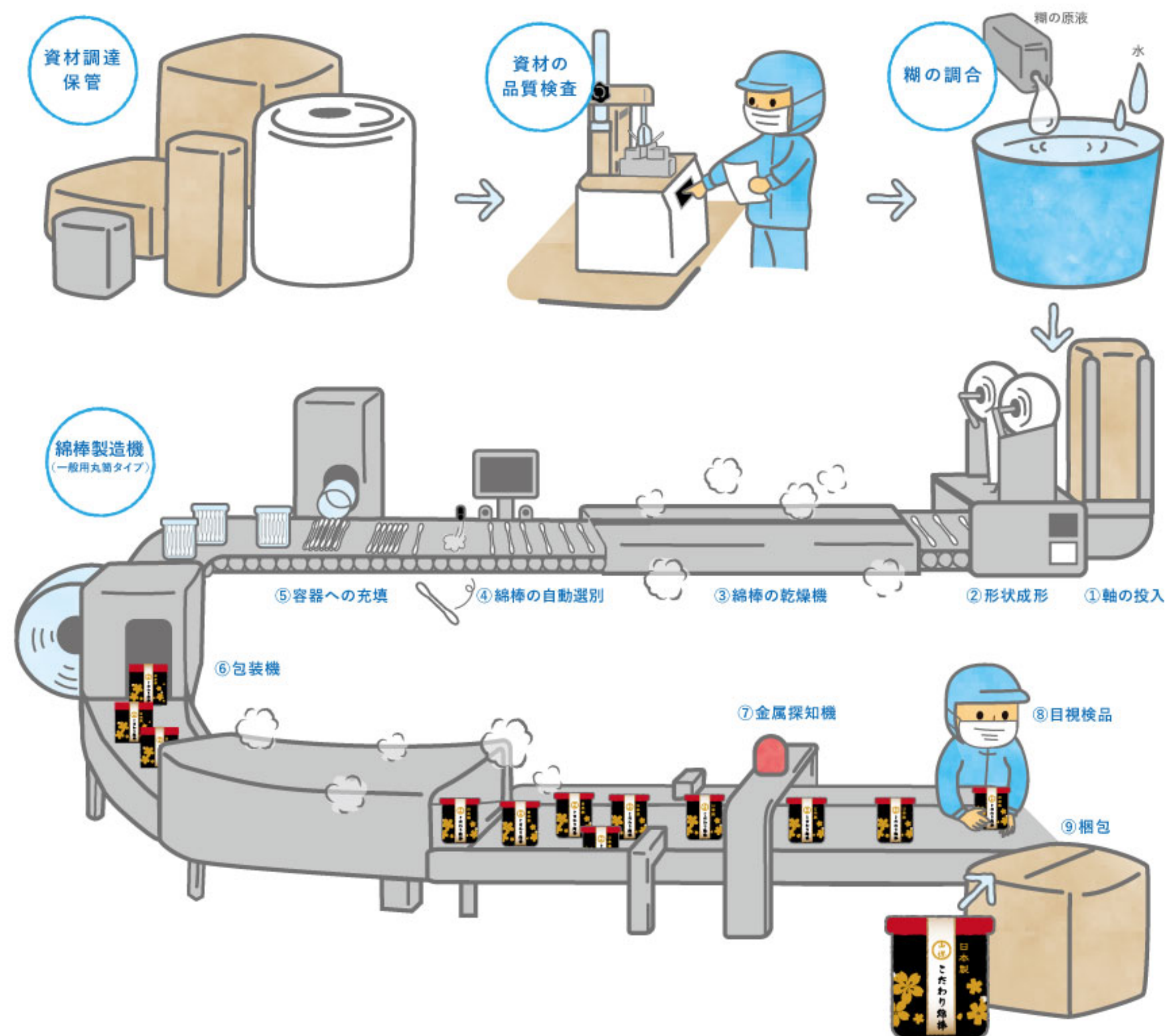


Cotton swab for industrial use

1990年代に入り、売上高が増える中で山洋でも社内整備が急務になった。同時期に国際基準化機構（ISO）品質マネジメントシステム規格・ISO 9000シリーズを取り入れる動きが広がっていたことから、山洋も品質マネジメントシステム規格・ISO 9000シリーズを取得した。結果、社内の体制整備がスムーズになり、社員の意識改革やレベルアップにも繋がった。現在も、ISO 9000の2015年版を取得し、社内の品質保持や社員教育のシステム作りに活用する事で、今も世界トップクラスの品質を維持し、評価を受けている。

製造
ライン

山洋の綿棒（一般用丸筒タイプ）ができるまでをイラストでご紹介。

詳細
説明

もっと、詳しく知りたい“山洋の綿棒”。

資材調達
保管

山洋では、生産管理部が生産工程に合わせて、綿・軸・容器・包装用材料等の綿棒生産には欠かせない資材全般の調達、保管、管理をしています。

資材の
品質検査

山洋では、品質保証部が生産前に納品された資材を抜き取りでチェックしています。山洋品質を維持するための大事な工程の一つです。

糊の調合

糊の配合率で綿の風合いが大きく変わるため、山洋ではアイテム毎に生産部が配合し、製造しています。

綿棒の製造
(一般用丸筒タイプ)

山洋の製品の大半を占める丸筒タイプの製造機を写真で補いながら左図のイラストに沿ってご紹介いたします。

①軸の投入



まずは、紙軸を納品された箱のまま製造機に設置します。軸が吸い込まれるようにレーンの上を流れて行き、そのまま綿をつける工程に移ります。

②形状成形



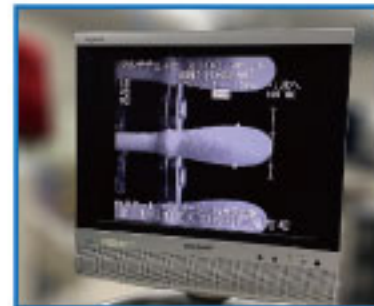
詳細は企業秘密なのですが綿を細かく砕いたものを、下糊のついた軸を回転させ巻きつけます。同時に上糊をかけながら形を成形していきます。

③綿棒の乾燥機



綿棒に合わせた特製のヒーターで成形されてすぐ、綿棒を乾燥させていきます。この工程で形をしっかりとキープします。

④綿棒の自動選別



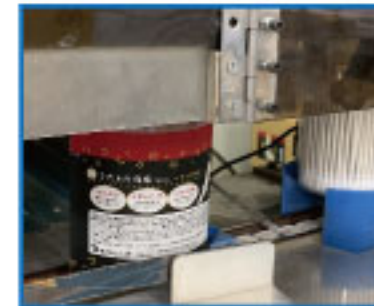
三台の CCD カメラで流れてくる綿棒を検知し、規格に合わない綿棒は瞬時にエアで弾かれます。

⑤容器への充填



カメラ検知で選別を受けた良品の綿棒を充填機前に集積し、丸筒に自動充填されます。

⑥包装機



丸筒商品はシュリンクフィルムという包材を使い容器を密封包装しています。そのフィルムを自動カットする機械です。

⑦金属探知機



万が一、製品に金属類が混入しては、お客様の安全が守れないため、1つ1つ金属探知機を通してチェックしています。

⑧目視検品



包装された後、箱に入れる前の最終チェックは機械に頼らず、人の目で行っています。山洋品質の維持には必要不可欠です。

⑨梱包



厳しい検品後、規格内の製品のみ梱包され、一旦倉庫に保管された後、各地へ出荷されています。

※金属探知機の取り付け位置はラインによって変わります。

取扱商品

山洋で取り扱っている商品は大きく4つのカテゴリーに分かれています。

一般用綿棒

一般の家庭で使用されています。
耳のお手入れ用、赤ちゃん用、メイク用、お掃除用と多種多様な使用シーンに合わせた綿棒があり、一般量販店(スーパー、ドラッグ、ホームセンターなど)で販売されています。山洋が販売する綿棒全体の約80%を占めています。



工業用綿棒

世界の工場で使用されています。
主にHDD、液晶工場でのワークの清掃に使用されます。NBブランド“HUBY”が精密機器の製造を支えています。世界的なシェアを誇り、日本国内のみならず、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど数多くの地域でご利用頂いております。



医療用綿棒

医療の現場で使用されています。
腹腔鏡手術、耳鼻咽喉科、産婦人科、介護などの現場で使用されています。基本的には滅菌処理を施しており、使用シーンに合わせた長い綿棒、綿部が大きい綿棒など、一般用綿棒では見ない特徴的な綿棒が多いです。



綿球

一般の家庭、医療の現場で使用されています。
メイクのお手入れや、医療現場での消毒液の含浸などに使用されています。また、糊を使用していないリントレス綿球も取り扱っております。



取扱サイズ

綿球 / #10.#14.#20.#25.#30.#40
リントレス綿球 / #14.#20.#25.#30.#40

販売地域

山洋の商品は国内工場、ベトナム工場から世界に羽ばたいています。

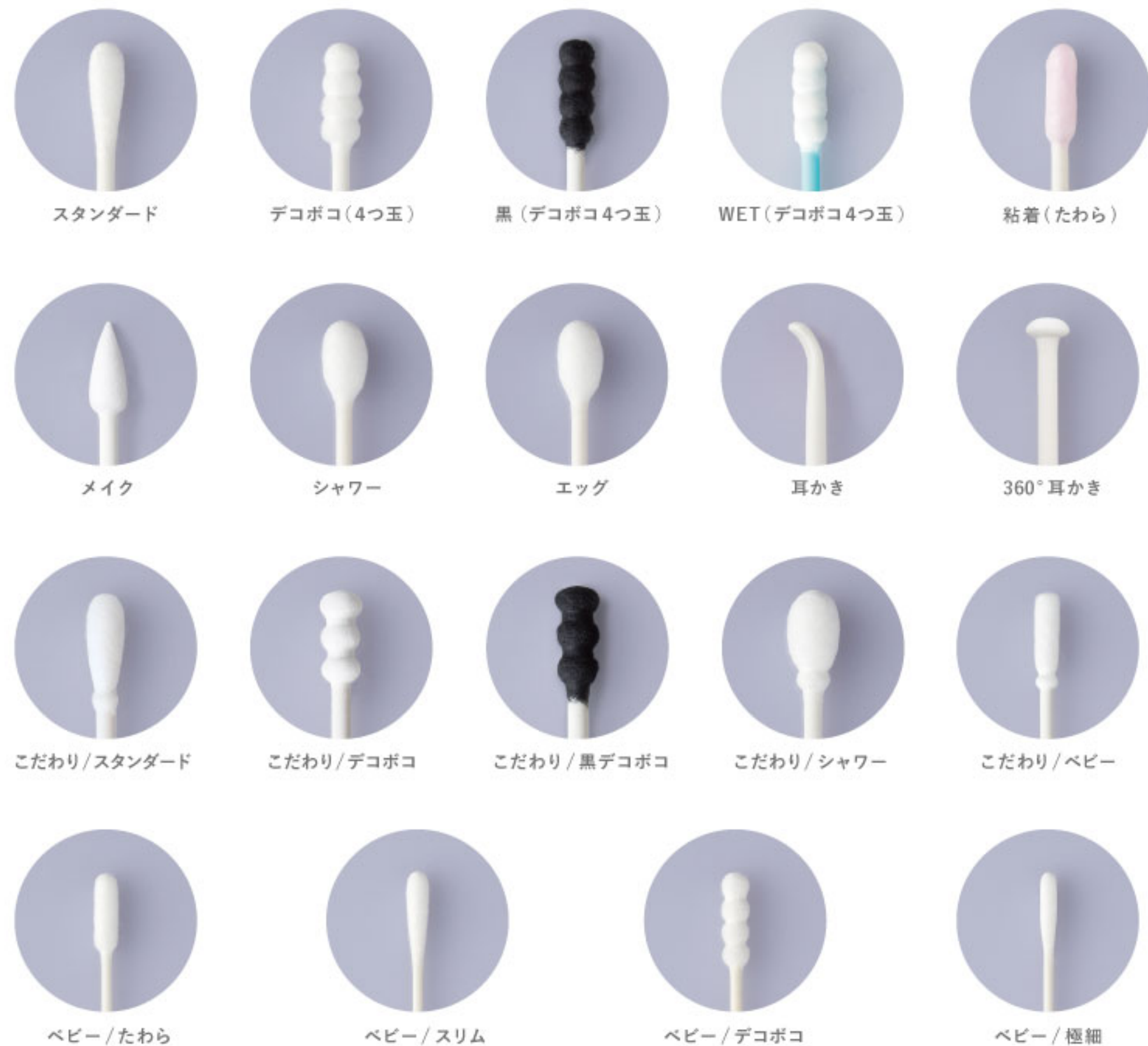
家庭用綿棒、工業用綿棒を中心に、アメリカ、ヨーロッパ、中国、ベトナム、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、シンガポール約30の国と地域で販売されています。
特に工業用綿棒の“HUBY”は世界的なブランドとして認知されており、ハードディスク等の精密機器の製造を世界の工場で支えています。



種類

綿棒を作り続けて50年以上の山洋は
取り扱っている綿棒の形状や種類が多種多様です。

綿棒の種類（一般用綿棒より抜粋）



軸の種類と長さ



※ 3インチ = 76.2 mm

容器・個包装

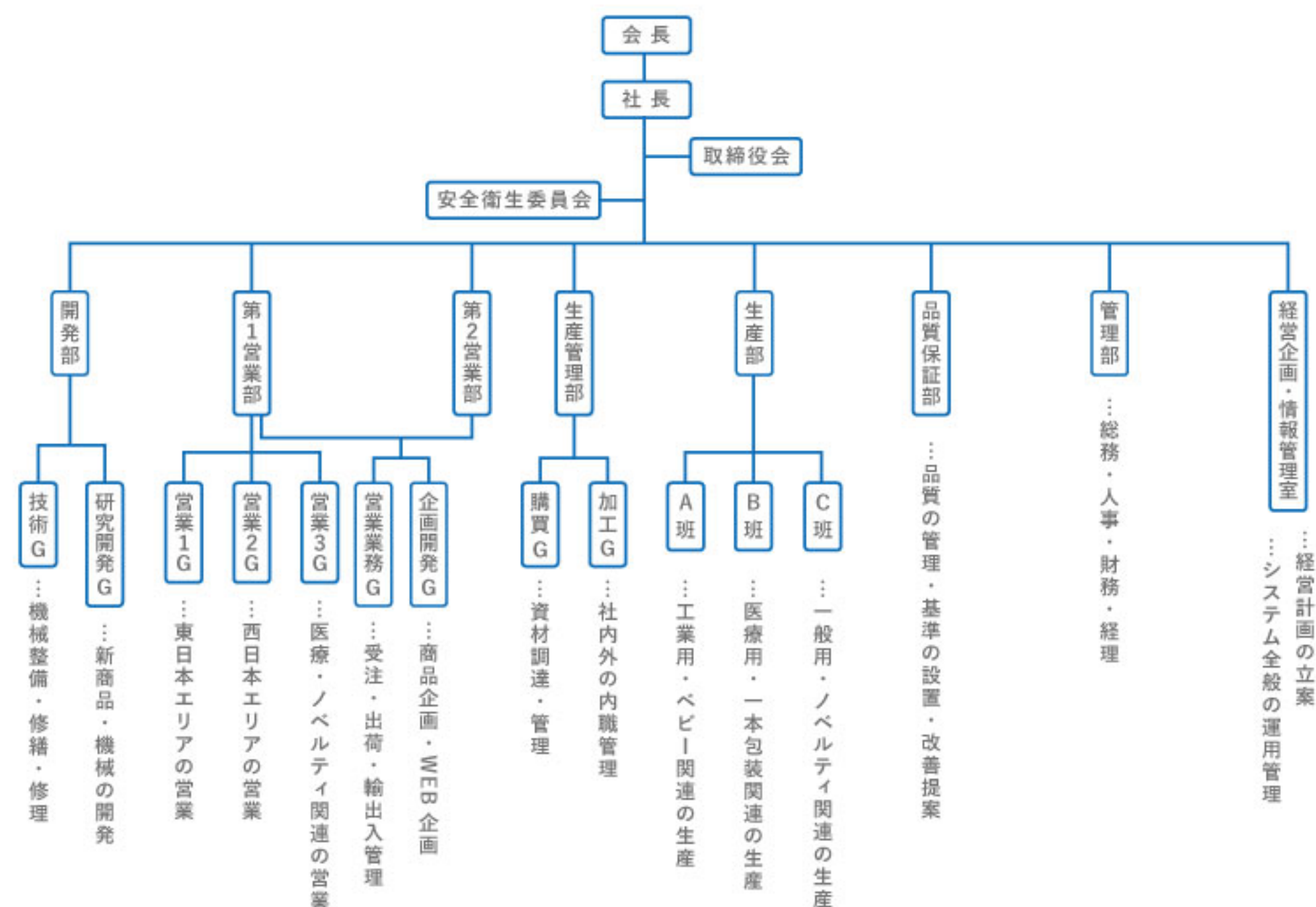


概要



代表取締役会長	中谷 洋	主要取引銀行	三井住友銀行 駒川町支店 三菱東京UFJ銀行 藤井寺支店 りそな銀行 富田林支店
代表取締役社長	日比 努	マネジメントシステム	ISO 9001:2015 (本社工場：工業用綿棒)
創 業	1967年(昭和42年)4月	業 許 可	第三種医療機器製造販売業 医療機器製造業 化粧品製造販売業 化粧品製造業
設 立	1980年(昭和55年)5月	加 入 団 体	一般社団法人日本衛生材料工業連合会 大阪医療品卸商組合 日本化粧品工業連合会 大阪衛生材料協同組合
資 本 金	6,000万円		
従 業 員 数	140名		
機 械 設 備	綿棒製造機・綿球製造機・綿棒包装機 他		
業 務 内 容	綿棒・綿球の製造、販売		

組織



事業所

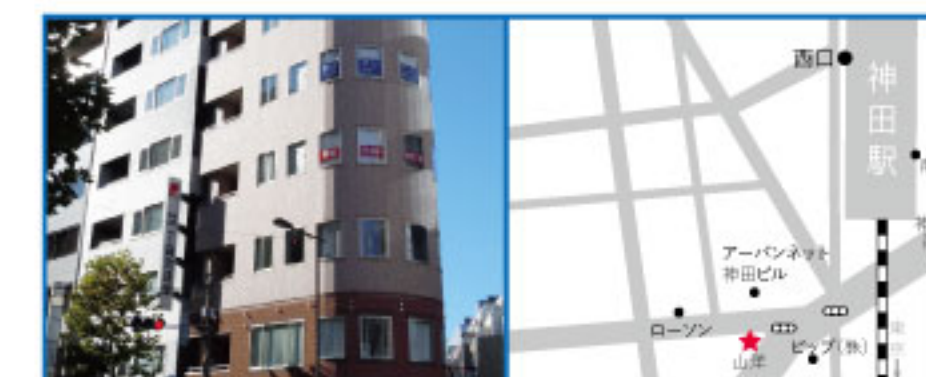
■本社



〒584-0022 大阪府富田林市中野町東2-2-6
TEL:(0721)24-3376 FAX:(0721)24-9145
※富田林駅南口よりタクシーで約5分、徒歩約25分



■東京



〒101-0047 東京都千代田区 内神田3-4-10 3F
TEL:(03)6206-8835 FAX:(03)6206-8729
※神田駅西口より徒歩約2分

グループ
企業

SANYO VIETNAM Co.,Ltd.



綿棒の製造、販売

山洋のベトナム工場。品質は厳しいチェックを受けており、日本製綿棒に劣らない。ベトナム国内でも高級綿棒として販売している。



Plot 226/10, Road2, AMATA
Industrial Park, Long Binh Ward,
Bien Hoa City, Dong Nai, Viet Nam
TEL : +84-251-393-6340 FAX : +84-251-393-6633

<http://sakura-cottonbud.com>



株式会社 クリーncross



工業用綿棒の国内・海外総販売元
(株)山洋製 一般綿棒の輸出版売元
工業用綿棒“HUBY”の国内・海外総販売元である。一般用綿棒も取り扱っており、海外にも山洋ファンを着実に増やしている。



〒584-0023
大阪府富田林市若松町東2-3-28
TEL:0721-20-0120 FAX:0721-20-0278

<http://www.cleancross.net>



株式会社 サンテック



紙軸の製造・販売

山洋には綿棒の軸を供給をしている。山洋で生産する綿棒の大半がサンテック製の軸であり、山洋品質を維持するのに重要な資材である。



〒584-0023
大阪府富田林市若松町東2-3-30
TEL:0721-25-6418 FAX:0721-25-7338

<http://santec-inc.jp>





<https://www.sa-n-yo.co.jp/>

最新の山洋情報はHPまで

